

弘大出版会賞に2点

第15回弘前大学出版会賞に、「白神どうぶつ讃歌」に、「白神の森で出会った動物たち」と「SDGsを足許から考えかたちにする」の2点が選ばれ、25日、同大附属図書館で表彰式が行われた。



弘大出版会賞を受賞した、小原氏（奥）と、平井氏（左）、北原氏

も含め紹介した、生き物の息吹を感じさせる一冊。小学生でも読めるよう、仮名を振ってある点も評価された。

「SDGsを」は同大大学院地域社会研究科教授の平井太郎氏の編著で、ほか教育学部名誉教授の北原啓司氏ら同大教員ら9人が執筆。国連が世界全体で共有すべく掲げた「SDGs（持続可能な開発目標）」について、フレーズ先行・分かりにくいという現状から、異なる分野の研究者が現場の人々と積み重ねた実践を共有している。

表彰式には、リモート参加の小原氏と、平井、北原両氏が参加。福田眞作学長は「今年の弘大出版会20周年にふさわしいことだえ、柏木明子出版会編集長から賞状と楯が贈られた。

小原氏は「57種は白神山地の全体から見たらほんの一部だが、この本を通して白神山地を少しでも身近に感じてもらえれば」と話し、

平井氏も「SDGsは2030年までの目標で、今、次の国際的な目標が議論されている。研究・フィールドワークを通し、また次なる国際・地域貢献につなげたい」と意欲を語った。

（西尾瑛）

陸奥新報 令和6年7月26日 2面
※この記事は陸奥新報社の提供です。

[問合せ先]弘前大学出版会
hupress@hirosaki-u.ac.jp

この画像は、当該ページに限って陸奥新報の記事利用を許諾したものです。
転載ならびにこのページへのリンクは固くお断りします。